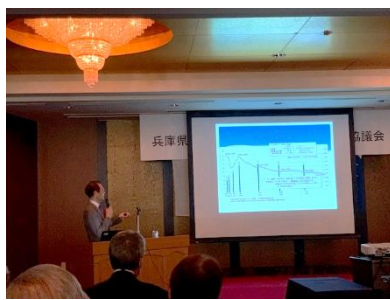


10月16日には全県の校長会があり、久しぶりに各地域の校長先生方にお会いすることができました。校長協会会長の挨拶にも



大きな会議の招集には非常に制約が多く、開催できたことの喜びを語っておられましたが、当たり前でできていたことができなくなると情報交換や共有が生の声でしにくくなるということを改めて実感しました。その後の教育長講話では、新型コロナ対策における緊急時の対応状況についての経過説明等もあり、初めて

の出来事に対応に苦慮してきた話をうかがうと今後の対応も含め、学校の在り方等学校全体でしっかりと考えていかねばならないことを痛感しました。西上教育長は、県立学校の約3分の2の学校を実際に訪問され、各学校の課題等を聞いておられるということで、私たち校長も大変心強く感じているところです。本校には昨年度来校され、生活科学科の授業等を見ていただきました。校長協会の各種委員会の報告もありましたが、生徒指導委員会からは高校生の自転車での事故や違反についての話もあり、生徒の皆さんだけでなく、教職員、保護者をはじめとして地域の方々と一緒に安全安心について考えなければならぬと感じました。

先日の新聞には大手旅行会社JTBが5年間でかなりの店舗数を減らし、インターネットでの申し込みを充実させる方向に舵を切るとの記事が出ていました。会社経営の最も経費のかかる人件費を縮小して利益を出して行くことが求められる時代に、今ある仕事で省けるものはどんどん省いて人員削減を図ろうとする状況に歯止めはかからないでしょう。新型コロナの影響で先延ばしされていたことが一気に加速して進むようになってきそうです。そうすると就職にも影響が出てきます。業種によっては厳しくなるところもあるでしょう。しかしながら人と接する仕事は絶対に必要です。「今の時代何が必要か、今後何が必要とされるか、なくなる仕事は何か。」をしっかりと見極めて自らの進路実現を図っていかねばなりません。「考える、見極める、準備する」習慣を身につけておいてください。AIが今後どのような形で導入され、AIと業務分担されるとするなら私達ができる事は何かをしっかりと考えていきましょう。そういった状況を見極めながら私達教員もしっかりとした情報を皆さんに伝えることができるよう研修を積んでいかねばならないと思っています。共に頑張りましょう。

10月20日神戸新聞朝刊には来年度の募集定員が発表になっていました。昨年本校は県下唯一定員増という昨今の流れからは想定できないことが起こり、その1クラス増えたおかげで随分と元気をいただけたように思います。本校は来年度も今年と変わりなく普通科160名、体育科・生活科学科それぞれ40名の計240名の定員となりました。北播磨地域で見ますと4校の普通科で1クラス減となり、高校受験の学区(第3学区)で言いますとクラス減の学校が2校増え、全体で6クラス減となります。県下全域では30クラス減となりました。今の中学3年生が県下で1700名減ということですのでやむを得ないのですが、今後ますますこの状況が続くと思われます。県教育委員会でも学校の適正規模についての協議は続いているようですが、少子化の影響がどんどん押し寄せてきます。北播磨地域は災害も少なく本当に住みやすい町ですし、子育ての環境も整っているように思います。新型コロナの影響で都会への一極集中を見直し、地方への分散の議論に拍車がかかってくると思うのですが、まずは良いところのPRをしっかりと、観光や産業等で人を呼び込むことが大切です。北播磨地域にも工業団地はいくつかあり、道路、高速道路も整備され、そういった意味では便利になってきています。工業団地での働き手として海外からの労働者も増えてきていますので、そういった方々との共存を考える中で、今の高校生、中学生が地域の魅力を理解し、広報し、将来的な戦略を考えることができれば、北播磨はチャンスの大い地域だと思います。新学習指導要領では総合的な探究の時間も入ってきますので、地域を探究し、地方創生に向け社高校として積極的に提案していけるように学習を進めていかねばなりません。皆さん、一緒に考えていきましょう。

朝夕も寒くなり1日の寒暖の差が大きくなりました。夜が明けると遅くなり、日が暮れるのが早くなりました。空気が澄んでとてもきれいなので夜空の星がとてもきれいです。また稲刈りがほぼ終了し、周りは緑から黄色、茶色と少しずつ彩りを変えています。周囲の変化にも目を向けながら、その変化を楽しむ余裕を持ち気分転換をしっかりと図って日々の生活を充実させてください。秋の深まりを感じて実りある2学期にしましょう。